中学歴史プリント（過去問類似）
鎌倉時代

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／8

問1 運慶や快慶によって東大寺南大門の金剛力士像が制作された13世紀前半、アジア大陸では新たな勢力が急速に台頭していました。当時の日本文化の背景と国際情勢の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2024年　神奈川県公立入試　類似）

1. 大陸ではモンゴル帝国が勢力を拡大しており、日本では武士の好みに合った写実的で力強い文化が栄えた。

2. 大陸では唐が滅亡して混乱が続いており、日本では貴族を中心に優雅な国風文化が全盛期を迎えた。

3. 大陸では宗教改革による対立が激化しており、日本では阿弥陀如来への信仰が武士の間に浸透した。

4. 大陸では秦の始皇帝が統一を果たしており、日本ではそれに対抗するために写実的な彫刻が作られた。

問2 後鳥羽上皇が『新古今和歌集』の編纂を命じた時期の政治的な背景について、最も適切な説明はどれですか。（2021年　香川公立入試　類似）

1. 幕府に対して朝廷の文化的・政治的優位性を示し、権威を立て直そうとしていた。

2. 源頼朝と協力して、武士と公家が協調する新しい政治体制を築こうとしていた。

3. 平氏を滅ぼした直後の混乱を収めるため、仏教の力による国づくりを目指していた。

4. 足利尊氏を征夷大将軍に任命し、武家政権の安定を図ろうとしていた。

問3 御成敗式目（貞永式目）の性質やその後の影響について述べた文として、正しいものはどれですか。（2019年　山口公立入試　類似）

1. 中国の律令を模倣したものではなく、わが国独自の武士の道理や慣習に基づいた内容であった。

2. 朝廷が支配する京都や荘園領主の領内を含め、日本全土に強制的に適用される法律であった。

3. 裁判の迅速化を図るために、8代将軍の徳川吉宗が判例をまとめたものである。

4. 武士だけでなく、農民や商人といった平民すべての生活規定を細かく定めたものである。

問4 13世紀、大モンゴル国の皇帝フビライ・ハンが日本へ送った国書の目的と、その後の経緯について述べた文として最も適切なものはどれか。（2024年　大分県公立入試　類似）

1. 日本に対して通交（外交・貿易関係）を求める内容であり、鎌倉幕府がこの要求を拒否したことが元寇へとつながった。

2. 平安時代の貴族に対し、日宋貿易を停止してモンゴルとの独占的な貿易を行うよう要求したが、朝廷がこれを受け入れた。

3. 永仁の徳政令によって困窮していた御家人たちに対し、生活を支援するための経済的援助を申し出る内容であった。

4. 承久の乱によって失墜した朝廷の権威を回復するため、六波羅探題の廃止を日本側に要求する内容であった。

問5 鎌倉時代の御家人の相続について記した記録によると、代を重ねるごとに領地を複数の子に分け与える慣習が続けられていました。このような相続方法が、幕府の支配体制に与えた大きな影響として、最も適切な説明はどれですか。（2022年　静岡公立入試　類似）

1. 領地が細分化されたことで個々の御家人の経済力が低下し、幕府への奉仕である軍役を果たすことが困難になった。

2. 一族の団結力が強まったことで惣領の権限が拡大し、幕府の統制を受けずに独自の軍事行動をとるようになった。

3. 土地の所有権が実力のある庶子に集中したため、惣領を中心とした一族のシステムが崩壊し、農業生産力が向上した。

4. 相続争いを防ぐために幕府がすべての所領を没収したため、御家人は地頭としての権利を失い、公家が再び土地を支配した。

問6 鎌倉時代、平氏一族の繁栄から滅亡までの過程を描いた「平家物語」は、ある人々が楽器を奏でながら語り歩くことによって広く民衆に伝わりました。この物語を語り広めた人々と、この作品が属する文学ジャンルの組み合わせとして適切なものはどれですか。（2026年　群馬公立入試　類似）

1. 琵琶法師 ― 軍記物語

2. 琵琶法師 ― 随筆

3. 念仏僧 ― 軍記物語

4. 白拍子 ― 物語文学

問7 1297年に出された「元寇後に出されたきまり（永仁の徳政令）」において、御家人の生活を立て直すために定められた具体的な仕組みとして正しいものはどれですか。（2020年　長野県公立入試　類似）

1. 御家人が借金の担保として質に入れたり、売却したりした領地を、無償で取り戻させる。

2. 幕府が御家人の借金をすべて肩代わりし、代わりに全国の商人に新たな税を課す。

3. 領地の売買を完全に自由化し、実力のある者が土地を集積して農業生産力を高める。

4. 御家人に対して、戦功に応じた新しい領地を朝廷の権限によって強制的に割り当てる。

問8 鎌倉時代に起こった承久の乱の背景や経過について述べた文として、最も適切なものはどれか。（2023年　大分県公立入試　類似）

1. 後鳥羽上皇が幕府を倒そうと兵を挙げたが、北条政子の呼びかけに団結した御家人らの大軍によって幕府側が勝利した。

2. 後醍醐天皇が幕府を倒そうと兵を挙げ、足利尊氏や新田義貞の協力によって、長年続いた鎌倉幕府を滅ぼした。

3. 源頼朝の死後、北条氏が実権を握ったことに反発した平氏の残党が、西国で反乱を起こして幕府軍と戦った。

4. 将軍の跡継ぎ問題をきっかけに守護大名が二つの勢力に分かれて争い、京都を中心に11年に及ぶ戦乱が続いた。

答え合わせ・解説

問1	**答え 1** **大陸ではモンゴル帝国が勢力を拡大しており、日本では武士の好みに合った写実的で力強い文化が栄えた。**	13世紀前半は、大陸においてチンギス・ハンがモンゴル帝国を建国し、急速に領土を広げていた時期に当たります。これと同じ時期の日本は鎌倉時代であり、幕府を中心とする武士の勢力が強まったことで、芸術面でも従来の貴族的な繊細さとは異なる、運慶・快慶に代表されるような力強く写実的な文化が発展しました。唐の滅亡は10世紀初頭、宗教改革は16世紀の出来事であるため、時代背景が異なります。
問2	**答え 1** **幕府に対して朝廷の文化的・政治的優位性を示し、権威を立て直そうとしていた。**	鎌倉時代初期、武家政権である鎌倉幕府が力を強める中で、後鳥羽上皇は朝廷の権威を象徴する文化事業として勅撰和歌集の編纂を行いました。このような朝廷中心の政治を目指す動きは、のちに幕府を倒そうとして兵を挙げた「承久の乱」へとつながっていきます。
問3	**答え 1** **中国の律令を模倣したものではなく、わが国独自の武士の道理や慣習に基づいた内容であった。**	それまでの日本の法律は中国の律令をモデルにした「公家法」が主流でしたが、御成敗式目は武士社会の現実（道理や慣習）を基準に作られました。当初の適用範囲は幕府の支配下にある御家人やその所領に限られていましたが、その優れた内容から、のちの室町幕府や戦国大名の分国法にも大きな影響を与えました。
問4	**答え 1** **日本に対して通交（外交・貿易関係）を求める内容であり、鎌倉幕府がこの要求を拒否したことが元寇へとつながった。**	13世紀、モンゴル帝国のフビライ・ハンは日本に対し、大モンゴル国との通交を求める国書を送りました。当時の鎌倉幕府（北条時宗）がこれを黙殺・拒否したため、モンゴル側は武力行使に踏み切り、文永の役・弘安の役という二度の元寇が起こりました。選択肢にある徳政令は元寇後の御家人救済策であり、六波羅探題は承久の乱後に設置された組織であるため、国書の送付とは時期や目的が異なります。
問5	**答え 1** **領地が細分化されたことで個々の御家人の経済力が低下し、幕府への奉仕である軍役を果たすことが困難になった。**	鎌倉時代初期の武士社会では、複数の子に所領を分け与える「分割相続」が一般的でしたが、代を重ねるごとに一人が所有する領地が小さくなる「領地の細分化」という問題が発生しました。これにより、御家人は馬や武器を整える経済的な余裕を失い、幕府に対する最も重要な義務である「いざ鎌倉」の際の軍役を十分に遂行できなくなりました。この経済的な衰退が、のちの幕府滅亡へとつながる大きな要因の一つとなりました。
問6	**答え 1** **琵琶法師 — 軍記物語**	鎌倉時代には、武士の活躍や戦乱の様子をテーマにした軍記物語が数多く作られました。その代表作である平家物語は、琵琶を弾きながら物語を語る「琵琶法師」と呼ばれる人々によって、文字を読めない人々も含めた幅広い層に普及しました。選択肢にある随筆の代表例としては、同時期に鴨長明が記した『方丈記』などがあります。
問7	**答え 1** **御家人が借金の担保として質に入れたり、売却したりした領地を、無償で取り戻させる。**	永仁の徳政令の主な内容は、御家人が手放してしまった領地を代金を支払わずに取り戻させること（領地の無償返還）です。これにより御家人の経済基盤を回復させようとしましたが、結果として金銭の貸し借りが滞り、かえって経済が混乱する原因ともなりました。
問8	**答え 1** **後鳥羽上皇が幕府を倒そうと兵を挙げたが、北条政子の呼びかけに団結した御家人らの大軍によって幕府側が勝利した。**	朝廷の権力を取り戻そうとした後鳥羽上皇は、北条氏を中心とする幕府に対して討伐の命令を下しました。これに対し、源頼朝の妻であった北条政子が「頼朝公の恩は山よりも高く海よりも深い」と御家人たちに訴えて結束させたことが、幕府軍勝利の大きな要因となりました。